江戸時代

名前

問1　1600年の関ヶ原の戦いに勝利したのち、1603年に征夷大将軍に任じられて江戸幕府を開いた人物として正しいものを、次のうちから1つ選びなさい。（2022年 宮崎県公立入試 類似）

1. 織田信長
2. 徳川家光
3. 徳川家康
4. 徳川吉宗

問2　江戸時代に整備された海上交通路である「西まわり航路」について、出発地から目的地までの経路を説明したものとして正しいものはどれですか。（2017年 広島県公立入試 類似）

1. 日本海沿岸の酒田を出発し、日本海を南下して下関を通り、瀬戸内海を経て大阪へ至る経路。
2. 出羽国の酒田を出発し、敦賀で一度荷物を下ろして陸路を通り、琵琶湖の小型船に積み替えて大阪へ至る経路。
3. 九州の長崎を出発し、対馬海峡から日本海に入り、北陸地方の各港を経由して大阪へ至る経路。
4. 日本海沿岸の酒田を出発し、津軽海峡を越えて太平洋側を南下し、江戸を経由して大阪へ至る経路。

問3　日本の交通網の変遷において、1988年に本州と四国を陸路で結ぶ橋が開通したことによる社会への影響として、最も適切なものはどれですか。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. ヴァスコ・ダ・ガマが持ち込んだ海外の最新技術が初めて橋の建設に活用され、日本が世界最大の貿易国となるきっかけとなった。
2. 船舶による輸送に依存していた地域間の移動が、自動車や鉄道によって短時間で可能になり、生活圏や物流の範囲が大きく拡大した。
3. 江戸時代から続いていた東まわり・西まわり航路の重要性が増し、橋を通るトラック輸送よりも海上輸送が日本の物流の主役となった。
4. モンゴル帝国の駅伝制にならって、橋の各所に宿場や馬の提供所が設置されたことで、徒歩による旅行者が急増した。

問4　江戸時代後期、多くの諸藩が財政難に苦しむ中で行った「藩政改革」において、財政を立て直すために広く採用された経済政策として、最も適切な説明を選んでください。（2017年 群馬県公立入試 類似）

1. 参勤交代の負担を減らすために、大名が江戸に滞在する期間を半年から1か月に短縮した。
2. 農村の人口減少を防ぐため、他国への出稼ぎを全面的に禁止し、すべての農民を自給自足の生活に戻した。
3. 幕府による株仲間の解散令に従い、商人の独占を廃止して自由な商取引を奨励した。
4. 藩が領内の特産物を安く買い上げ、都市の商人を通じて有利な価格で売り出す専売制を強化した。

問5　日本の近代産業が発達する過程で見られた、工場制手工業（マニュファクチュア）の特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

1. 資本家が工場を建て、そこに多くの人を集めて、手作業の分業によって製品を生産する形態。
2. 大規模な工場において、蒸気機関などの動力を使い、機械によって製品を大量生産する形態。
3. 商人が農家に原料や道具を貸し出し、農家が自宅で製品を加工して商人に納める形態。
4. 農村において、各家庭が自分たちで使う分だけの衣服や道具を自給自足で生産する形態。

問6　北前船は、単に荷物を運んで運賃を得るのではなく、船主自らが各寄港地で商品を買い取り、それを別の港で売却して利益を上げる独自の経営スタイルをとっていました。この商船の形式を何と呼びますか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）

1. 蔵元
2. 買い積み
3. 問屋制
4. 株仲間

問7　江戸時代の農業において、収穫作業を効率化させ、生産量の増大に寄与した技術的背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2018年 鳥取県公立入試 類似）

1. 「千歯扱き」と呼ばれる農具が登場したことで、それまでの扱竹（こきだけ）に比べて脱穀作業の効率が飛躍的に高まった。
2. 「惣村」と呼ばれる自治組織が、高床倉庫を共同管理することで、収穫した米の長期保存と安定供給を実現した。
3. 「口分田」の制度を廃止して農地の私有化を認めたため、農民が自発的に灌漑用水路を整備するようになった。
4. 「石包丁」が改良されて全国に普及したことで、一度に大量の稲を収穫することが可能になった。

問8　江戸幕府が行った「天保の改革」において、水野忠邦が物価の上昇を抑えるために実施した政策として最も適切なものはどれですか。（2024年 大阪府公立入試 類似）

1. 株仲間の解散
2. 新田開発の奨励
3. 長崎貿易の制限
4. 上米（あげまい）の制の導入

問9　江戸時代の庶民の教育について、当時の子供たちが机を並べて筆で文字を書いたり、本を読んだりしている様子を説明した一節として、最も適切なものはどれですか。（2021年 奈良県公立入試 類似）

1. 藩校において、武士の子弟として必要な論語などの儒学や武芸を厳しく叩き込まれていた。
2. 昌平坂学問所において、幕府の役人になるための専門的な行政能力を磨いていた。
3. 寺子屋と呼ばれる施設において、日常生活や商売に必要な読み書き算盤の基礎を身につけていた。
4. 私塾において、長崎から伝わった最新の医学や天文学などの蘭学を研究していた。

問10　16世紀後半から19世紀前半にかけて確立された日本の社会構造において、農村で商品作物の栽培や手工業が発達した主な理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

1. 貨幣の使用を禁じる法令が出されたことで、農民たちが物々交換を行うための加工品を大量に作り始めたため。
2. 幕府が全国の農地を没収し、すべての農民を都市の工場に強制的に移住させて工業生産に従事させたため。
3. 海外との自由貿易が推奨された結果、外国産の安価な農産物に対抗するために高付加価値な工業製品のみを作るようになったため。
4. 農民が年貢を納めたあとの余剰分や、市場での販売を目的とした作物の生産によって、現金収入を得る必要性が高まったため。

問11　19世紀前半の江戸時代に出された「異国船打払令」の内容とその背景について、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 群馬県公立入試 類似）

1. イギリスやロシアなどの船が日本近海に現れるようになったため、沿岸に近づく外国船を無条件で攻撃して追い払うよう命じた。
2. 欧米諸国との間で正式な国交を樹立するため、特定の港に限定して自由な貿易を認める方針を示した。
3. 清（中国）との貿易を促進するため、長崎に加えて新たに兵庫の港を開港することを決めた。
4. キリスト教の布教を防ぐことを目的として、スペインやポルトガルの船が日本に来航することを一切禁止した。

問12　江戸時代の経済政策において、田沼意次が株仲間を積極的に活用した背景とその影響に関する記述として、正しいものはどれですか。（2017年 大阪府公立入試 類似）

1. 中世から続く「座」の特権を排除するために結成されたが、幕府の統制を受けない自由貿易を目指したため、すぐに解散させられた。
2. 自給自足の経済を復活させるために商人の力を抑えようとしたが、結果として農村での一揆が激増する原因となった。
3. 貨幣経済の浸透に伴い、年貢以外の収入を増やす必要があったが、独占によって物価が上昇する一因にもなった。
4. 鎖国による貿易不振を補うために結成されたが、オランダ商館との直接取引を試みたことで幕府の反感を買い、弾圧された。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 徳川家康	1600年の関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、1603年に征夷大将軍に任命され、江戸幕府を開きました。徳川家光は参勤交代を整えた第3代将軍、徳川吉宗は享保の改革を行った第8代将軍です。
問2	答え 1 日本海沿岸の酒田を出発し、日本海を南下して下関を通り、瀬戸内海を経て大阪へ至る経路。	西まわり航路は、東北地方（山形県）の酒田を起点とし、日本海沿岸を西へ進んで本州西端の下関を回り、瀬戸内海を通って経済の中心地である大阪へと結ぶルートです。この航路の確立により、東北や北陸の年貢米などが大量に「天下の台所」と呼ばれた大阪へ運び込まれるようになりました。
問3	答え 2 船舶による輸送に依存していた地域間の移動が、自動車や鉄道によって短時間で可能になり、生活圏や物流の範囲が大きく拡大した。	1988年の瀬戸大橋の開通を含む本州四国連絡橋の整備は、それまで「離島」に近い交通環境にあった四国と本州を陸路で直結させました。これにより、通勤・通学圏の拡大、農産物の迅速な輸送、観光客の増加など、地域経済や住民の生活様式に劇的な変化をもたらしました。
問4	答え 4 藩が領内の特産物を安く買い上げ、都市の商人を通じて有利な価格で売り出す専売制を強化した。	江戸時代後期の諸藩は、貨幣経済の浸透により深刻な財政難に陥っていました。これを打開するため、各藩は領内の特産物（薩摩藩の黒砂糖や長州藩の紙・ろうなど）を藩が独占的に買い上げ、大坂や江戸の市場で販売して利益を上げる「専売制」を導入しました。これにより、商人に頼らずに藩自らが利益を確保し、財政の再建を図りました。一方で、幕府が江戸で行った株仲間の解散（天保の改革）などは、藩政改革とは異なる動きです。
問5	答え 1 資本家が工場を建て、そこに多くの人を集めて、手作業の分業によって製品を生産する形態。	工場制手工業は、それまでの「家」単位の生産から「工場」という組織的な生産へと変化した重要な段階を指します。「人を集めて」一箇所で作業させること、そして一人が全工程を行うのではなく「分業」を行うことが、生産性を向上させる鍵となりました。動力に機械を導入する前の段階であるため、あくまで「手作業（手工業）」である点がポイントです。
問6	答え 2 買い積み	北前船の最大の特徴は「買い積み」という商法にあります。寄港地ごとに価格差を利用して売買を繰り返しながら航行したため、莫大な利益を生むことが可能でした。この仕組みにより、日本海沿岸の寄港地には多くの富がもたらされ、独自の文化が発展しました。
問7	答え 1 「千歯扱き」と呼ばれる農具が登場したことで、それまでの扱竹（こきだけ）に比べて脱穀作業の効率が飛躍的に高まった。	江戸時代には元禄文化の頃を中心に農業技術が大きく発展し、千歯扱きの普及によって脱穀の効率が劇的に改善されました。石包丁や高床倉庫は弥生時代、口分田は律令制（古代）、惣村による水路管理などは主に中世の特徴であり、時代背景が異なります。
問8	答え 1 株仲間の解散	水野忠邦は、物価高騰の原因が株仲間による流通の独占にあると考え、これらを解散させて自由な流通を促そうとしました。しかし、かえって流通が混乱し、経済の低迷を招いたため、改革は短期間で失敗に終わりました。徳川吉宗が行った上米の制や新田開発などの享保の改革の政策とは性質が異なります。
問9	答え 3 寺子屋と呼ばれる施設において、日常生活や商売に必要な読み書き算盤の基礎を身につけていた。	庶民の教育熱は非常に高く、都市部だけでなく農村部にも寺子屋が普及しました。そこでは「読み書き算盤」という実利的な教育が行われ、これが明治時代以降の近代化を支える国民的な教育基盤となりました。武士が通う藩校や、専門的な学問を学ぶ私塾とは、教育の対象や目的が異なります。
問10	答え 4 農民が年貢を納めたあとの余剰分や、市場での販売を目的とした作物の生産によって、現金収入を得る必要性が高まったため。	江戸時代中期以降、農業技術の向上によって生産力が高まると、農民は年貢として納める米以外の土地で、綿、菜種、藍、紅花などの「商品作物」を栽培するようになりました。これらを都市の商人に売ることで貨幣を得る「貨幣経済」が農村まで広がり、その資金や原料をもとに、農村部で布を織るなどの手工業が発展することとなりました。
問11	答え 1 イギリスやロシアなどの船が日本近海に現れるようになったため、沿岸に近づく外国船を無条件で攻撃して追い払うよう命じた。	江戸時代後期になると、産業革命を経て海外に進出した欧米列強の船が日本近海に頻繁に姿を現すようになりました。これに対し幕府は1825年に異国船打払令（無二念打払令）を出し、日本の沿岸に接近する外国船を理由を問わず砲撃して追い払う強硬な姿勢をとりました。
問12	答え 3 貨幣経済の浸透に伴い、年貢以外の収入を増やす必要があったが、独占によって物価が上昇する一因にもなった。	田沼意次は商業資本を積極的に利用して幕府の財政を立て直そうとしました。しかし、株仲間による流通の独占が強まると、商品の価格が操作されやすくなり、都市部での物価高騰を招きました。これが後の松平定信による寛政の改革において、田沼政治が批判される要因の一つとなりました。